

近頃思う事

第 11 組善了寺門徒 青木平七郎

私は、岐阜高山教区門徒会から選出され、参議会議員として宗政に参画させていただいております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

今年正月明けから非常に感染力の強いオミクロン型のコロナウイルスの第 6 波が国内で急拡大し、社会活動の維持に支障が出るほどの懸念が高まっています。当然お寺における日常の法務や葬儀・法要等が縮小化し、仏法の^{えいざ}会座が奪われ、門徒が共々に教えを聞く聞法^{もんぽう}の場が失われているのが現在の姿であり、いつまでこの状況が続くのか誰にも予測がつきません。知り合いの中にも、経済的な問題を抱き死活問題として誰かに向かつて怒りをぶちまけている姿を見ると、人を死に迫いやる危険を含んだ社会問題でもあるように感じます。日々心は晴れることなく孤独感が漂い、気分はますます落ち込むばかりですが、必ず光り輝く明日が到来するのだと前向きな気持ちをもって「頑張ろう！」の掛け声。また日が昇ると思う今日この頃です。

私たちの日常生活は、コロナによって、飲食をはじめとした「三密」の状況から生まれる人と人をつなぐ懇談や議論の伝達^{でんた}の場は、人間の持つ信頼関係の基礎となり、共感を育む重要な役割をもっていたということを再認識する機会ともなりました。一方、昨年菅内閣が掲げた重点政策によってデジタル庁が新設

され、行政手続き等がスマートフォンを活用してできるようになります。具体的には、マイナンバーカードの申請、カードの健康保険証利用等、情報技術の推進により、私たちの日常生活の在り様が大きく変わるのではないかと思います。

宗派ホームページを開けば、浄土真宗の教え、東本願寺の基本情報、歴史等を即座に知ることができます。また、機関紙である『同朋新聞』が閲覧できるようです。オンラインでの講座など、コミュニケーションなどの改革を一段と加速させることにもなりました。発達する情報技術と相俟^{あいま}って、対面での人間が持つ話す力、聞く人の眼差し、頷き、場の空気感がどのように共存していくのか改めて問われることとなるのではないのでしょうか。

また、宗門においても、このような社会において、どのように真宗の教えを（南無阿弥陀仏の教えを）共有できるかが大きな課題です。